## 黙想:12月30日(主 の降誕第6日)

黙想のテーマ:「預言者アンナ、メシアの到来を告げる」「イエス、普通の幼少期を過ごす」「神と時間」

<u>預言者アンナ、メシアの到来を告げ</u> る

イエス、普通の幼少期を過ごす

神と時間

「夜のしじまがすべてを覆うとき、 神よ、あなたのことばが天から下っ た」(知恵の書 18・14-15)。この入祭 唱で今日のミサが始まります。クリ スマス(降誕節)の6日目にあたる この日、この驚くべき出来事を自ら の生活に生かしたいと願います。つ まり、神はみ言葉を私たちに遣わ し、み言葉は肉となり、私たちの一 員となられました。私たちは、これ らすべての出来事を三位一体の神に 感謝したいと思います。私たちも天 使たちの声に合わせ、神の栄光を絶 え間なく歌います。神の幸福とは私 たちが救われることであり、その喜 びを歌うのです。天国の祝祭は大地 にも伝わり、私たちはこの喜びに浸 ります。

きょうの福音朗読で、長年にわたり 寡婦として過ごしたアンナが登場し ます。聖ルカは、彼女を女預言者と して描いています。神が御子の誕生 を伝えるために選ばれたのは、有名 人や名声のある人物ではなく一人の 謙虚な寡婦でした。これは意味深い ことです。イエスの誕生の証人はみ な、世間ではたやすく信じてもらえ ないようなごく普通の人たちです。

アンナは、長年にわたり未亡人とし て孤独な辛い生活を送っていたた め、あるいは彼女の厳格な断食や祈 りのために、少し混乱していたのだ と考える人もいたかもしれません。 彼女がそれに気づいていたかどうか はわかりません。しかし主は、メシ アの誕生を知らせるために彼女を使 おうと望まれたのです。「そのと き、近づいて来て神を賛美し、エル サレムの救いを待ち望んでいる人々 皆に幼子のことを話した」(ルカ2・ 38)。時折、神は信じがたいように 見える証人を選ばれます。同様のこ とはあの羊飼いたちや、何年も後の マグダラのマリアにも起こりまし た。彼女は弟子たちに信じてもらえ なかったのです。「子どものような

心の人たち、つまり素朴な心を持つ者だけが、この啓示を受け入れることができます。謙虚で温和な心の人、自分の貧しさを知っているので神に心を開いて祈る必要があると感じている人だけが」 [1]。

自然で控えめなやり方で贖いを実現 したいのです。

聖ホセマリアは、メキシコのグアダ ルーペの聖母像に向かって次のよう な言葉で意中の願いを表しました。 「私たちの心に『普通の生活の小さ なバラ』が育ちますように。それは 平凡でありながらも、犠牲と愛の香 りに満ちています。私はあえて"小 さなバラ"と申しました。なぜな ら、それが私には一番ふさわしいか らです。私は自分の人生で普通のこ と、当たり前のことにしか関わって おらず、しかも度々それさえやり遂 げることができなかったからです。 しかし、私は確信しています。その 日常の行い、日頃の行いこそが、あ なたの御子とあなたが私を待ってお られる場だという確信ですした。

その後30年の間、イエスの生涯は沈 黙に包まれます。それはベツレヘム で生まれる前のような静けさです。

しかし、その沈黙は実に雄弁であ り、私たちの救い・贖いがまさにそ こで成就されているのです。やが て、多くの人が言うでしょう。「こ の人は大工の息子ではないか。 母親 はマリアといい、兄弟はヤコブ、ヨ セフ、シモン、ユダではないか? | (マタイ13·55)。普通の生活で自 然に生きること、これはイエスが思 春期、青年期、成熟期に過ごした道 でした。ですから私たちは、仕事と 人間関係、日々の出来事や身近なも のの聖化のためにその模範にならい ます。

私たちは主なる神がお生まれになるのを9か月かけて待ちました。今度は、主の公生活が始まるまで30年待つことになります。しかし私たちは、お告げの瞬間から救いの神聖な計画が進行中であることを知ってい

ます。御母の「はい」という返事によって、神が永遠に立てた人類のかました。それではいません。と進かれず、私たちのととが、かっくができません。「はいません。「はいません。「はいません。「はいません。「はいません。「はいません。「はいるではいる」にはいる。私たちは日々のもいるとはいるといるです。なかなか神を見つけることができません。

「ですから、キリストのご降誕のり。ときは、沈黙を守っるときは、沈黙を守っるとれただきらさがましただらいただらいに関からに関からに抱きであるとばをでいるできるという。 をしているでは、御子をしましたがままに、ないで本がまない。 ないはないがあるがあれば、一つのとがないます。 はいるではいます。 のを教えてくださいます。 のを教えてくださいます。

アンナは長年にわたりメシアの現れを待ち続け、自分の魂の中で主がお話しための場所を作りました。時に私たちは、神が沈黙なしもるのを非難するかもしれません。よういを非難するから入りこんではいまりです。夜のしじまの中で、神はです。です。神はご自身のな出来事です。神はご自身の契

約を後悔なさらない。マリアは沈黙を守って普段通りの生活を9か月間送り、その後も沈黙を守りぬきました。私たちも自分の沈黙・潜心を守れるように共にいてくださいとマリアさまに助けを求めることができます。私たちも、彼女の御子の現れを見逃したくないからです。

- [1] 教皇フランシスコ、説教、2014 年12月2日。
- [2] 聖ホセマリア、グアダルーペの 聖母像の前での私的な祈り、1970年 5月20日。
- [3] 教皇ベネディクト十六世、説 教、2005年4月24日。
- [4] 教皇フランシスコ、説教、2015 年12月24日(カトリック中央協議会 訳)。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-1230/(2025/12/17)